

補助事業概要の広報資料

補助事業番号 23-1-108

補助事業名 平成23年度 学術・文化の振興のための 補助事業

補助事業者名 N) 東京フィルメックス実行委員会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

ア) アジア映画コンペティション開催

近年、映画を取り巻く環境は均一化し、質的に極めて乏しい状況に陥っている。大手を除き、秀作を配給する事業者は多く倒産に追い込まれきた。

背景には、90年代後半から映画は”一本かぶり”の傾向が強まっている点が挙げられる。ある大手の映画会社のような一握りの勝ち組を除き、2000年代後半の不況、リーマン・ショック以後、立ち行かない映画事業者の倒産が相次ぎ、商業ベースで日本で公開される非メジャーの秀作の機会が著しく減り、さらに平成21年秋から翌年に掛けて都内でミニシアター5スクリーンが閉館し、さらに数館の閉館もまことしやかに囁かれ、競争の原理ではもはや「映画における多様性の維持」が困難な状況にある。

そこで、既存の産業では見落とされる「作家性」という価値にこだわり創造性溢れるアジアの映画作家の作品を集めてコンペ（国際映画祭「東京フィルメックス」）を行う。事業者向けに”観客付き見本市”の面も持たせ、制作した字幕の二次利用により流通を促進、と民間の事業者では担えない点をNPOとして補完する。

本事業は以上をもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア) アジア映画コンペティション開催

既存の産業では見落とされる「作家性」という価値にこだわり創造性溢れるアジアの映画作家の作品を集めアジア映画のコンペティション（「第12回東京フィルメックス」）を実施して、日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供し、かつ体系的に海外に発信させる。

実施会期：

平成23年11月19日（土）～11月27日（日）

実施会場：

東京都千代田区・有楽町朝日ホール（11/20-27）

東京都千代田区・TOHOシネマズ 有楽座（11/19のみ）

東京都千代田区・有楽町朝日スクエア

東京都中央区・東劇（11/19～25）

東京都千代田区・TOHO シネマズ 日劇3（11/19～27）

東京都渋谷区・オーディトリウム渋谷（11/11、12）

上映作品数： 40 作品 56 回上映

総入場者数： 約 18,559 人

登壇ゲスト数： 84 人

セミナー数： 7 プログラム

- 会場別 (全 9 日間)
 - 有楽町朝日ホール (8 日間、26 回上映)
 - TOHO シネマズ 有楽座 (1 日間、1 回上映)
 - 東劇 (7 日間、21 回上映)
 - TOHO シネマズ 日劇 2 (9 日間、9 回上映)
 - 有楽町朝日スクエア (6 日間、セミナー6 プログラム)
 - オーディトリウム渋谷 (2 日間、4 回上映、セミナー1 プログラム)
- 以上、実施

●上映作品(部門別)

1) 東京フィルメックス・コンペティション：

アジアの新進作家による、独創的で文化多様性の追求をかなえる作品を上映するコンペティション部門。本事業のメイン部門。国内外の計5名で組織された審査員が最優秀作品賞と審査員特別賞を選び、最終日に表彰。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。10 作品上映。

2) 特別招待作品：

作家性に富み、かつ現在の映画製作のトレンドを示す新作を紹介する部門。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。10 作品上映。

3) 特集上映：

映画史に足跡を残す重要な映画作品を特集。日本で紹介されていない海外の巨匠や、海外に知られていない日本の作家を特集し、国内外の映画人や観客に広く紹介。

a) 限定♪川島パラダイス！

多くの映画会社で活躍し、日本映画の黄金期を支えた川島雄三監督作品を

特集。海外での作品上映に繋げるため、英語字幕付で上映。東京都、東京文化発信プロジェクト、松竹との共催企画。(5作品 8回上映)

b) 相米慎二特集「相米慎二のすべて -1980-2001 全作品上映-

2001年、惜しまれつつ世を去った相米慎二監督の全作品を特集。相米組、松竹との共催企画。(13作品 13回上映)

c) 「ニコラス・レイ 生誕100年記念上映」

「理由なき反抗」、「大砂塵」で知られるハリウッドの巨匠ニコラス・レイの生誕100年を記念して、幻の遺作「ウィ・キャント・ゴー・ホーム・アゲイン」のデジタル修復版を上映。同作を追ったドキュメンタリー「あまり期待するな」も上映。

4) 関連イベント

前年同様、映画祭期間中に子どもを対象とした「『映画』の時間」を、「おやこ鑑賞会」として実施。「デジタル化による日本における映画文化のミライ」として「デジタルシネマとVPF問題のシンポジウム」独立系映画事業者ネットワークと共催した。

また毎年好評の企画「字幕翻訳についてのセミナー」や今回の特集上映であった川島雄三監督についてのセミナーを会期中に行い、映画業界を志す若者やプロの方から一般の方々まで、幅広い方々を対象としたプログラムを用意した。

さらに教育機関との協力により、多摩美術大学芸術学部、日本大学芸術学部による団体鑑賞。日大生へは映画学科の学生に上映後プログラム・ディレクターが作品や映画祭についてのレクチャーをするなど広く活動について知ってもらう機会を設けた。

2. 予想される事業実施効果

成果

1) 子どもへの取組み

11月23日、「夏の庭」の上映を、「映画」の時間、親子映画鑑賞会として、親子にアクセスしやすい休日の昼間に開催。20名を招待した。

2) バリアフリーの取組み(新規)

上記1)のプログラムを、聴覚障がい者用日本語字幕を付けて上映し、バリアフリー上映に当会としても初めて取組んだ。終映後のトーク(ゲスト:河合美智子)は手話通訳付きで行った。

3) 英語字幕付日本映画（新規）

本事業でプログラムされた当会が選んだ優れた日本映画に対する補助として、英語字幕付素材制作への補助を行い、日本映画の海外発信に寄与した。

4) 学生審査員（新規）

若者、とくに学生の主体的な映画祭への参画を主眼として学生審査員を創設。東京学生映画祭との協働で、「学生による運営の審査員を組織、学生が学生の視点で選んだ1本を選出し顕彰（受賞作は「東京プレイボーイクラブ）」」することで、若い映画観客層の創出に寄与した。

■ 上映作品その後の展開

・ 日本映画作品

コンペ上映作のうち「東京プレイボーイクラブ」（奥田庸介監督）が1月のロッテルダム国際映画祭タイガーアワード・コンペ部門、「無人地帯」（藤原敏史監督）が2月のベルリン国際映画祭フォーラム部門へと発信された。

また、特集上映で取り上げた川島雄三監督作品は2月のベルリン国際映画祭フォーラム部門、3月の香港映画祭へ発信された。そのほか、特別招待作品の「CUT」は4月にトライベッカ映画祭（米国）、「KOTOKO」は1月のロッテルダム、「RIVER」は4月にウディネ映画祭（伊）と発信されている。

・ 外国映画作品

映画祭上映後、特別招待作品「これは映画ではない」の配給が決まるほか、コンペで最優秀作品賞を受賞した「オールド・ドッグ」等には映画祭での反応をみた映画事業者による問い合わせが相次いでいる。同作は海外からもマルセイユの「FIDマルセイユ」などより照会がある。ほか「カウントダウン」、「奪命金」など計4作品に対して映画事業者から買付けに関する問い合わせの反響がある。

12月公開の「CUT」は東京のミニシアターでの3ヶ月のロングラン。オープニングで観客賞を受賞した「アリラン」（キム・ギドク監督）、「ニーチェの馬」などは、劇場公開が第3四半期と重なり話題となっている。

・ 過去の上映作品

また昨年上映の作品では、特別招待作品であった「溝」（ワン・ビン監督）は『無言歌』として公開され、キネマ旬報で外国映画作品第4位に、同じく特別招待された園子温監督「冷たい熱帯魚」は日本映画の第

3位につけさらに園監督は日本映画監督賞など多くの榮譽に輝いた。

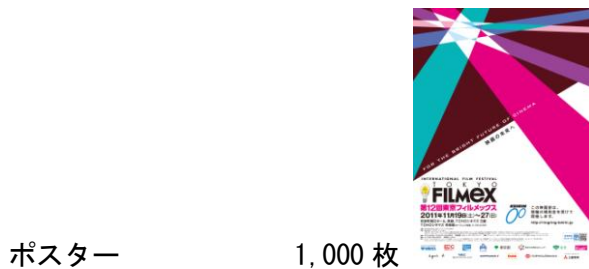
■（新規） 学生自治主体との協働、（継続）教育機関との連携、子ども対象上映の実施

過去数年実施している子どもへの取組み、大学との連携を引き続き、実施した。ディレクターによる出張授業（於：多摩美術大学）、課外授業（日大生受け入れ）はいずれも学生からの反響は大きく、過去に参加した日大生たちは課題の一環として、平成24年1月に映画館を借りて独自の上映会をプログラムする成果も生んだ。また今年は学生によるサークル東京学生映画祭により「学生審査員賞」を授与した（「東京プレイボーイクラブ」が受賞）。こうした連携を通じて、若い学生による主体的な映画や芸術、ひいては社会的な取組みへの参加を望んでいる。

■（新規） バリアフリーの取組み

過去に貴会からはヒアリング等を通じて、また他のステークホルダーから本事業における「映画の社会的な取組み」についてご意見を伺っていた。その結果、本補助事業では、「映像制作費」が採択されたこともあり、貴会ご担当者様に相談した上で、今年当会としても初めて聴覚障がい者向けのバリアフリー上映に取組んだ。社会福祉団体との連携を重ね、今後も継続したい。

3. 本事業により作成した印刷物等



ポスター

1,000 枚



リーフレット

20,000 枚



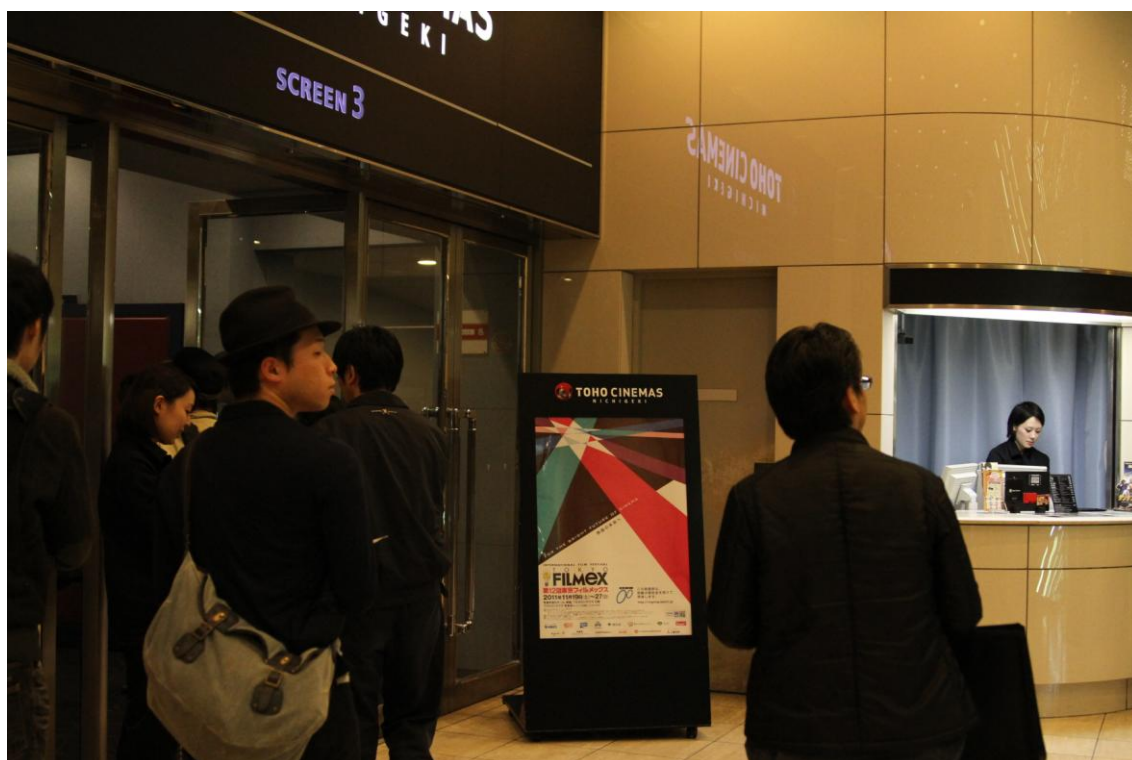
チラシ 80,000 枚



公式カタログ 2,400 部

そのほか、劇場看板（有楽町マリオン）、バックボードなどを制作し、「競輪補助事業」である旨、露出をアピールした。※尚、貴法人制作の「Ring Ring」のCFを有楽町朝日ホール、TOHOシネマズ有楽座にて27回、TOHOシネマズ日劇3にて9回、計36回上映した。







4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会

(トクテイヒエイリカヅドウハウジントウキョウフィルメック)

スジッコウイインカイ)

住 所 : 107-0052
東京都港区赤坂5-4-14 トレード赤坂ビル 3F

代 表 者 : 理事長 森 昌行 (モリ マサユキ)

担当部署 : 事務局 (ジムキョク)

担当者名 : スタッフ 金谷 重朗 (カナヤ シゲオ)

電話番号 : 03-3560-6393

F A X : 03-3586-0201

E-mail : canalla@filmex.net

U R L : <http://www.filmex.net/>